

ハクサイ低コスト実現

豚ふん由来肥料で2割減

茨城・JA常総ひかりプロジェクト

【茨城・常総ひかり】JA常総ひかりは、JA主導でJA全農いばらきと県結城地域農業改良普及センター、タキイ種苗と連携した「秋冬ハクサイプロジェクト」の取り組み結果をまとめた。低コスト肥料「サステナミライZ1」を使うことで、コストを約22%削減できた。6月上旬、八千代町のJA八千代支店で開いた2024年産の秋冬ハクサイの栽培講習会で、全農いばらきの担当者が報告した。

県の土地と気候に合った品種を選定することが重要。学んだことを生かし、有利販売につなげていきたい」と話した。

収量・品質慣行並み

プロジェクトは、2021年～23年までの3カ年で取り組んだ。世界情勢や為替などの影響で肥料価格が高騰したことから低コスト肥料を検討した。	その後、一層のコスト削減を目指し、県内の豚ふん堆肥を利用した、低コスト肥料「サステナミライZ1」(保証成分窒素12%、リン酸6%、カリ4%、マンガン0.4%、ホウ素0.2%)に注目。昨年、同普及センターが行った試験では、慣行区と収量・品質は同等で、肥料コストは約22%削減できた。	講習会には各地区の部会生産者や、関係機関、JA職員ら45人が参加。種苗メーカー3社が推奨する秋冬ハクサイの品種と栽培ポイントについて説明を受けた。
--	--	---

JAは、混合堆肥複合肥料「エコレット055」(保証成分窒素10%、リン酸5%、カリ5%)を施肥試験したところ、肥料費は慣行栽培に比べ約20%減